

■堀口大学 詩人。日本を代表する名訳詩集『月下の一群』をはじめ、類を見ない翻訳の量と幅広さで大きな影響。

ほりぐちだいがく

大本教・・・1892＝ 東京本郷の東大赤門前の家で、漢詩人でもあった外交官九萬一の子に生まれ、大学と名づけられる。

日清戦争始・1894＝ 2歳：妹が誕生。外交官になった父が朝鮮に赴任したため、母・妹と長岡に引揚げると、
日清戦争終・1895＝ 3歳：母が死去。以後、祖母の手で甘やかされて育ち、

子規句歌革新1898＝ 6歳：父と同じ、長岡町立阪之上尋常高等小学校に入学し、
Bushidou・・・1899＝ 7歳：早くも性的に欲情するほど早熟で、
作文は全国コンクールの品評会に出されて、全国巡回展示され、

田中正造直訴1901＝ 9歳：父の命で、英語も学び始める。

日露戦争始・1904＝12歳：卒業して、長岡中学校に入学、
日露戦争終・1905＝13歳：この頃、悪ガキを脱して、俳句に興味を持つようになり、
満鉄発足・・・1906＝14歳：この年、{新詩社}では北原白秋・吉井勇ら同人が大量に脱退、
アヲキ創刊・1908＝16歳：この年、{スバル}で吉井勇の作品を見て魅了される一方、外国にいる父から第一高等学校進学を命じられ、
伊藤博文暗殺1909＝17歳：{スバル}で吉井勇の作品を見て魅了される一方、外国にいる父から第一高等学校進学を命じられ、
韓国併合・・・1910＝18歳：卒業すると、祖母・妹とともに上京し、受験するも失敗。祖母が死去後、{新詩社}に入ろうと与謝野寛を

大逆事件判決1911＝19歳：第一高等学校に再挑戦するも失敗。春夫と相談して、慶応義塾大学文学部予科に入学、永井荷風の引きで{三田文学}にも発表し始めるが、息子を外交官にしたい父に呼ばれ、途中、ハワイで咯血、公使の息子として厚遇されながら静養後、父の赴任地メキシコに着き、初めて継母ら家族と日本公使館で生活、

明治天皇没・1912＝20歳：父の命でフランス語を学ぼうと、フランス文学を原語で読みたくなり、猛勉強の一方、
大正政変・・・1913＝21歳：自転車泥棒に遭遇して新聞ダネとなり、肺炎で重態となり、荒療治で脱する。軍事クーデターにも遭遇。家族とともに一時帰国後、父が新赴任地スペインに向かうにあたって、父の希望を入れるべく、継母の義父をたより、日銀総裁の幹旋も受けて、ベルギー銀行に日銀囑託生となるも、勤務に全くなじめず、

第一次大戦始1914＝22歳：父の命でフランス語を学ぼうと、フランス文学を原語で読みたくなり、猛勉強の一方、
21ヶ条要求・1915＝23歳：初めてローランサンの絵を見て衝撃を受け、大戦でスペインに滞在中の彼女のアトリエを訪ね、意気投合するという強烈な体験をし、詩に開眼、

ロシア革命・1917＝25歳：外交官試験を受けるべく単身帰国、二次まで合格するも結核が再発して断念、文学への専念が決まる。
本格政党内閣1918＝26歳：父の二度目の勤務となるブラジルに赴き、父の大きな庇護を得て、訳詩集『昨日の花』を手始めに、
ペルシヤ条約・1919＝27歳：*第一詩集『月光とピエロ』、第一歌集『パンの笛』、アポリネールの訳詩に着手、
大暴落・・・1920＝28歳：訳詩集『失われた寶玉』、短編集の翻訳『水色の目』など、華やかな文壇デビュー果たすも、苦悩しながら、
原敬首相暗殺1921＝29歳：訳詩『サマン選集』、
水平社結成・1922＝30歳：翻訳『沙上の即席』。詩集『新しき小径』。訳詩集『月夜の園』刊行。コクトーの訳詩にも手を染め、
関東大震災・1923＝31歳：翻訳『シャルル・ルキ・フィリップ短編集』。父に従い、ブラジルから帰国、来訪してきた第一書房を始めたばかりの長谷川巳之吉の立居振舞に目を見張るも、出版しようとしていたそれまでの訳詩集の大部分を収めた『月下の一群』の原稿は大手出版社に預けて、ルーマニアに向かい、

護憲三派圧勝1924＝32歳：アンリ・ド・レニエ「燃え上がる青春」。パリでローランサンと再会、ポール・モランに面会して訳出した新感覚派出現の契機となった小説『夜ひらく』出版の了解を得た上、さまざまな面倒まで見て貰う。

治安維持法・1925＝33歳：*帰国定住。文化学院大部教授となる。たなざらしになっていた『月下の一群』の原稿を取り戻して推敲していたところ、来訪した長谷川巳之吉が見るなり出版したいと持ち帰り、長谷川の素晴らしい装幀による『月下の一群』が出版されるや、日本の代表的な名訳詩集の評価を得、以後、次々と第一書房から出版、

円本時代始・1926＝34歳：翻訳・・・詩集『砂の枕』、さらにその補遺となる訳詩集『空しき花束』を刊行、文化学院は病気で1年休講、
金融恐慌・・・1927＝35歳：翻訳・・・、
共産党事件・1928＝36歳：翻訳・・・、日夏耿之介・西条八十と共同で文芸誌『パンテオン』を創刊するが、
世界恐慌・・・1929＝37歳：翻訳・・・、文化学院を蔵になる。自ら連載する『エロスの傾分』を、日夏から罵倒されたためか、
海軍軍縮条約1930＝38歳：翻訳・・・、
満州事変・・・1931＝39歳：ラディゲ作『ドルジェル伯の舞踏会』訳、ほかに・・・、
五一五事件・1932＝40歳：翻訳・・・、父の家を出て一戸を構える。

国際連盟脱退1933＝41歳：翻訳・・・、
帝人疑獄事件1934＝42歳：翻訳・・・この間、自作詩集はこの年『ヴェニウス生誕』が出版されただけで、
芥川直木賞始1935＝43歳：初の随筆集『季節と詩心』。翻訳・・・、江戸川アパートに逼塞、日本ペンクラブ副会長、
二二六事件・1936＝44歳：翻訳・・・突然来日したフランスの詩人ジャン・コクトーの案内役をつとめ、
日中戦争始・1937＝45歳：翻訳・・・コクトーの日本印象記を翻訳、うち『相撲の印象』は雑誌『相撲』に掲載、
健保+総動員1938＝46歳：翻訳・・・、継母が死去。野尻湖で少女畑井マサノと知合い、
第二次大戦始1939＝47歳：翻訳・・・、可愛い弟子という関係となり、
大政翼賛会・1940＝48歳：サルトル作『壁』訳。ほかに・・・、
日米開戦・・・1941＝49歳：翻訳・・・、正式に結婚、まもなく静岡県興津に疎開、
・・・1942＝50歳：翻訳・・・、文学上の師与謝野晶子が死去し衝撃を受ける。
創価学会検挙1943＝51歳：翻訳・・・、長男が誕生、以後溺愛する。自作詩集『豆花集』は出版許可されず、原稿のまま放置。
敗戦・・・1945＝53歳：翻訳・・・、長女が誕生。静岡も空襲を受けるようになり、新潟に再疎開。*前年には第一書房が廃業し、敗戦後、長期講演旅行から戻ってきた父が直後に死去。

新憲法公布・1946＝54歳：翻訳・・・、高田に転居。
新憲法施行・1947＝55歳：翻訳・・・、詩集『人間の歌』、

極東裁判判決・1948＝56歳：随筆集『白い花束』。
三大事件・1949＝57歳：『ボオドレエル詩集』『ランボオ詩集』、

朝鮮戦争始・1950＝58歳：翻訳・・・、
独立回復・・・1951＝59歳：翻訳・・・、

TV放送始・・・1953＝61歳：ジャン・ジュネ『花のノートルダム』訳、神奈川県葉山に転居。
自衛隊発足・1954＝62歳：コレット『青い麦』訳ほか・・・、

55年体制始・1955＝63歳：翻訳・・・、
国連加盟・・・1956＝64歳：エッセイ『仮装舞踏会』。翻訳・・・、

なべ底不況・1957＝65歳：芸術院会員となり、国際ペン大会会長もつとめ、都会的な詩風を示す詩集『夕の虹』で、
インスタマン・1958＝66歳：読売文学賞。以後も、少ないながら毎年翻訳出版を続け、

安保闘争・・・1960＝68歳：
TV宇宙中継始1963＝71歳：長男が行方不明となり、長野県白馬岳で心中したことが判明し、傷心。

東京リビック1964＝72歳：親友佐藤春夫がラジオ録音中に急逝したことに衝撃を受けるも、
自らは老いてますます健康という状態で、多数の女性ファンからの半ばラブレターに囲まれ、

大阪万博・・・1970＝78歳：文化功労者として顕彰され、
日中国交回復1972＝80歳：随筆集『捨菜籠』。「アポリネール遺稿詩篇」訳、
石油ショック1973＝81歳：母校長岡高校に詩碑が建立され、その除幕式に出席したのが最後の帰郷となり、
クランブル事件1975＝83歳：父の漢詩に自分で訳をつけた『長城詩抄』を刊行、
革新大敗北・1979＝87歳：文化勲章受章したが、
貿易摩擦問題1980＝88歳：随筆集『日本の鶯』、
・・・1981＝89歳：脳梗塞で倒れ、まもなく没した。
工藤美代子「黄昏の詩人 堀口大学とその父のこと」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、